

天然林で選木を体験しました

令和6年7月2～3日、東京大学北海道演習林（富良野市麓郷）で、見学会に参加しました。

この見学会は、北海道森林管理局と東京大学北海道演習林が、定期的な交流の機会と相互理解を目的として、昨年度より取組まれており、令和6年度は道内各地から約30名が参加しました。

同演習林では「林分施業法」という、森林の特性や天然力を活用するきめ細かな手法で、長期的かつ大規模な天然林施業、銘木市に出品するための優良木管理、独自の育苗技術等が取組まれています。

見学会では、林分施業法の一部である選木を体験しました。選木する1本1本に理由付けを行い、木だけを見るのではなく、周りの様子も考え、どの木を伐るのが一番良いかを決めるのは大変難しいことでした。伐採後の跡地検査と支障木調査では、林分施業法の最終工程として、選木したものだけが正しく収穫されているか、伐採時に生じた支障木があるかの確認が行われます。選木時に電子野帳へ収穫木の情報を記録しているのので、現場へiPadを持っていくだけで、選木時のデー



▽選木方法の解説の様子



▽センノキ優良木の様子

タと照合しながら、確認作業ができることに驚きました。先進的な収穫調査や大規模な天然林を見るのは初めてだったので、とても新鮮な2日間でした。

タネ飛ばしに歓声

令和6年7月20日、鶴居村ふるさと情報館で、わんぱくアドベンチャークラブ7月講座「木育ワークショップ」の活動支援を行いました。

この取組みは、鶴居村教育委員会が、様々な活動を通して、相手を思いやる心を養う、青少年リーダーを育成することを目的として実施しています。16名の参加がありました。

当センターは、今年度で2回目の支援となり、風で運ばれるタネについて、パワーポイントで説明後、2

シナノキ



風が運ぶ袋

袋や毛を使って風へのり、速くへ運ばれる

シラカンバ



ハルニレ

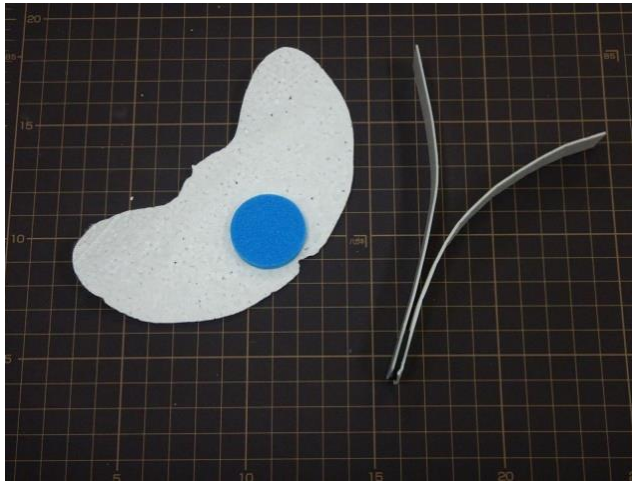
ダケカンバ



イタヤカエデ



▽風で運ばれるタネの解説



▽タネの模型（アルソミトラとラワン）

班に分かれ、タネの模型作りとフォトフレームの飾付けを行いました。タネの模型作りでは、アルソミトラとラワンの2種類を作成して飛ばし、子ども達は飛び方の違いに歓声をあげながら、タネの不思議に触れていました。

フォトフレームの飾付けでは、マツボックリやドングリ等をグループで接着し、それぞれ個性的な作品を作成していました。

今回の活動を通じて、参加した子ども達が、森林の良き理解者になってもらえれば、うれしく思います。

JICA研修員が

広葉樹の森林づくりを見学

令和6年8月27日、雷別地区自然再生事業地で、JICAによる2024年度「中央アジア国別研修」の現地見学が行われました。

この研修は、湿地保護に従事する中央・地方政府の関係者が、地域の開発と環境、生物多様性保全に貢献することを目的として実施されており、当センターが支援しました。

まず笹地11で、当センターの活動区域図を示し、それぞれの位置関係を説明しました。その後、当地区の概要、森林再生の方針や保護管被覆による成果等を説明しました。

次に笹地10へ移動し、令和3年に植栽した広葉樹（カツラ・ミズナラ・ヤチダモ）について、これまでの生育状況を説明しました。

その際、自動撮影カメラが目に残ったようで、エゾシカなどの動物の話に興味深く聞いていました。

最後に研修員から「この研修では、森林再生地の見学を楽しみにしていました。活着率が90%を超えていることは、素晴らしいことです。ここで得た知見を今後に生かしていきたい。」とお礼の言葉をいただき、皆様と記念撮影をしました。



▽自動撮影カメラの説明を聞く様子



▽自然再生事業地の説明を聞く様子



林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【E-mail】h_kushiro_f@maff.go.jp

【URL】https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

国民の森林・国有林



当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林を主な活動区域として、フィールドの特徴を踏まえて、教育関係者、ボランティア団体・地域住民、企業、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。